

ナシ新品種「甘太(かんだ)」の特性

「甘太」は、「新高」と同時期かやや早く収穫される晩生の青ナシで、開花期が「新高」より 5～6 日遅く、晩霜害に遭いにくい。果実の日持ち性は「新高」よりやや劣るが、ていあ部（果頂部）の亀裂はなく、みつ症の発生は少ない。果肉は軟らかく高糖度で食味が優れている。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室（担当者：藤丸 治）

研究のねらい

本県の晩生ナシの主力品種である「新高」は開花が早く晩霜被害を受けやすいこと、果肉がやや硬く、果実に生理障害（果頂部の亀裂やみつ症）の発生が多いことなどから生産が不安定である。

そこで、開花が遅く、果肉が軟らかく高糖度の晩生の優良品種を選定する。

研究の成果**< 来歴 >**

「甘太」は、（独）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で、「王秋」に「あきづき」を交配して育成され、平成 25 年に品種登録出願公表された、晩生の青ナシ品種である。

1. 樹勢は「新高」と同程度で、腋花芽の着生は「新高」より少ないが、短果枝の維持が容易なため花芽の確保がしやく、作りやすい品種である（データ略）。
2. 開花期は、「新高」より 5～6 日ほど遅く、「幸水」と「豊水」の中間程度の時期である。収穫期は 9 月中旬～10 月初め頃で、「新高」と同程度かやや早い（表 1）。
3. 果実は円楕円形で腰高であり、1 果重は 650g 程度で、「新高」より軽い（写真 1、2 および表 2）。
4. 果肉硬度は「新高」より軟らかい。糖度は 15～17 程度で「新高」より高く、pH は 4.9 程度でやや酸味があるが、甘味が非常に強いため酸味をあまり感じない（表 2）。
5. 果実の日持ち性は「新高」より短く、14 日程度である（表 2）。
6. 収量性は「新高」と同程度かやや多い（図 1）。

普及上の留意点

1. 今回の調査結果は白一重袋による有袋栽培の結果である。なお、青ナシであるがサビが発生しやすく、無袋栽培では赤ナシ様の外観となる。
2. 果皮色が 3.0 を超えると果肉が軟らかくなりすぎるため、3.0 以下での収穫を行う。
3. S 遺伝子型は S_3S_4 であり、県推奨品種の「秋麗」「あきづき」とは交配親和性がないので、交配に使用する花粉品種に注意する。



写真1 ナシ「甘太」の着果状況



写真2 ナシ「甘太」の果実

表1 「甘太」「新高」生育比較

品種	開花期(月/日)			裂果 (ていあ部の亀裂)	収穫期(月/日)		
	始	盛	終		始	盛	終
甘太	3/30	4/2	4/7	無	9/19	9/25	10/2
新高	3/24	3/27	4/2	有	9/21	9/26	10/2

注1) 「甘太」は白一重袋、「新高」は2013年遮光袋、2014年白一重袋による有袋栽培

注2) 2013年と2014年の平均

表2 「甘太」「新高」果実品質比較

品種	横径 (mm)	縦径 (mm)	1果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	pH	果形	玉揃	日持ち性	みつ症
甘太	110.7	101.3	656	4.5	16.4	4.91	円楕円	良	14日	少
新高	121.4	107.9	859	5.6	12.8	5.02	円	良	14日以上	多

注1) 「甘太」は白一重袋、「新高」は2013年遮光袋、2014年白一重袋による有袋栽培

注2) 2013年と2014年の平均

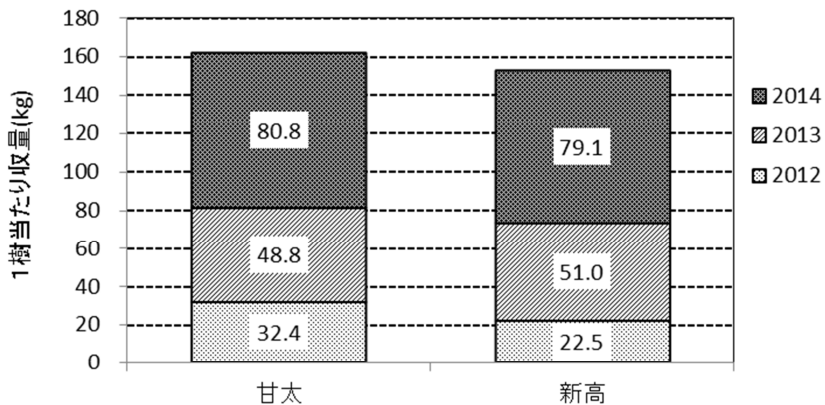


図1 「甘太」と「新高」の6～8年生の収量比較(2012～2014年)